

令和2年度地域福祉推進会議

会議概要

日 時：令和2年12月21日（月）9：15～11：30

場 所：山崎本社みんなのあいづラザ 1F 多目的ホール

参加者：23名 ※事務局等を含む

（スタッフ：3名、事務局：3名、アドバイザー1名）



～今回のわらい～

今年度最後となる第3回会議では、「地域生活課題」をベースに整理した計画の骨子案を説明しました。また、骨子案に掲載している「基本目標」ごとに地域生活課題を達成するための取組を検討しました。会議の最後では、全3回の推進会議のまとめとして、「これからの地域福祉」について、参加者それぞれが自分なりに言い換え、「地域福祉」の再定義を行い全体で共有しました。

第3期計画骨子組立案の説明

【説明：福祉総務課 倉田】

これまでの会議から導き出した、「地域生活課題」をもとに、施策の展開・具体的取組を進めるための基本目標を作成し、今後さらにブラッシュアップしていくために、参加者へ向けて説明しました。

基本目標①多様性を前提としたつながり方の改革

多様性を前提にすると、地域の見え方や人とのかかわり方が変わり、活動のあり方もアップデートの必要性に気づく。

基本目標②「私の暮らし」の見つめ直し（個人と世帯の範囲）

日頃は意識していない小さな共同体を私たち自身が見つけ直すこと、これを地域福祉の「はじめの一步」としたい。

基本目標③互いの認知と理解の促進（隣近所の範囲）

毎日のあいさつやちょっとした雑談など、近所での気軽なかかわりが当たり前ではなくなっている今、改めてかしまらない普段着のコミュニケーションの重要性を再確認する。

基本目標④暮らしのセーフティーネットとなる安心・安全の地域の土台づくり（地区・地域の範囲）

同じ地域に暮らす人たちとの出会う場やさまざまな活動は、私たちの毎日の生活を守る、安心・安全のセーフティーネット。地縁組織によるこれまでの地域づくりの営みや価値を再認識し、これからのあり方を考える。

基本目標⑤多様な選択肢を生み出す新しい支え合い育て（地域の強みや特性にあわせて）

既にある社会資源を紡ぎ直し、多様な主体の強みを生かしながら、時に連携して、これまでになかったインフォーマルなサービスを生み出すことで、暮らしの質を高めたい。



意見交換①：地域生活課題を達成するための取組の検討

【進行：ひろしまジン大学 平尾さん】

「基本目標」を達成するために必要な、取組、実施主体(メイン・パートナー)、役割分担、実施プロセスの第一歩として何をやるかについて議論しました。

※一部抜粋

基本目標①多様性を前提としたつながり方の改革

行政の考え方
価値観を変える

「やさしい日本語」
の普及・学び

身近な場での
「多様化」を
学び・知ること

基本目標②「私の暮らし」の見つめ直し

地域で子育て
公園デビュー
応援プラン

認知症とともに
暮らす地域の
実現

単身世帯の
相談窓口

基本目標③互いの認知と理解の促進

ゴミ置き場で
コミュニケーション

動物(犬)で
コミュニケーション

基本目標④暮らしのセーフティーネットと なる安心・安全の地域の土台づくり

公共交通機関の
充実

子ども中心の
コミュニティ
づくり

基本目標⑤多様な選択肢を 生み出す新しい支え合い育て

支え合いの
土壌づくり

意見交換②：「地域福祉」の再定義

【進行：ひろしまジン大学 平尾さん】

これまでのプレ回、全3回の推進会議を振り返り、「これからの地域福祉」を自分なりにひとこと言い換え、A4用紙に書き出し、全体で共有しました。

明日にワクワク
未来にときめき！

1人1人の(が)
声かけできる環境

みんなに
少しずつFitする
まちづくり

みんなで考え
みんなでつくる
誰もが参加できる

育つ、育てる
働くなかで
最後まで何かを守り、
何かに守られ
自分らしく生きること

豊かな生活を
追求すること

多様性との
共存

未来へつなぐ

となりの人を
大切にする

もっと見える化

多様性を
受け入れる

アップデート

将来の自分を
考えること

先の見えない
時代だからこそ
地域で暮らすことの
意味、価値は
「地域福祉」につながる

みんなが
(だれもが)
「選択」できること

生活とじっくり
向き合うこと

つながる
しあわせを感じる

多様性の容認



まとめ

【アドバイザー：県立広島大学 手島先生】

会議の最後に行った地域福祉の再定義の中で、多様性、つながり、人を大切にする、という言葉がありましたが、これらが大切であるということについての否定は少ないでしょう。ただ、現実の社会というものは、とても矛盾に満ちた実態です。多様性が大事だと言いながら、自分と異なるものを排除しようとし、つながりが大事だと言いながら、自治会に入らないなど、人との距離を自ら取ろうとします。

地域福祉というのは、こうした矛盾が現れるものです。決まり通りにはいかないことや、一人の幸せと社会の幸せが矛盾するなどして、表面化することが多く、なかなか一筋縄ではいかないテーマが多く存在します。私は、そういった中でも進めていこうとするのが地域福祉であり、地域福祉計画だと思います。

廿日市市の地域福祉は、一般的に広く取り上げられる生活の困難を抱えた人々だけでなく、もっと前提にあるものをターゲットに置いているのが特徴だと思います。支え合いのもっと手前にある、個人がどう生きるか、家族をどう捉え直すか、また、近隣の人々とどう関わっていくか、これらの「見つめ直しの柱」が3つあります。基盤を強化する趣旨の計画の成果を非常に楽しみにしています。

廿日市市役所の職員が一堂に会して議論する時間を持つのは、日程調整や時間の確保も大変だったと思います。こうして皆さんも参加した計画だからこそ、その成果に期待したいです。